ながないんぢゃ

What's in a name?

吉岡乾（よしおか のぼる）　民博　人類基礎理論研究部

山田太郎さんをご存知だろうか。山田花子さんでも構わない。

残念ながら筆者の狭い交友関係では、知人・友人とよべる人一覧にそういった名前の方は存在していない。けれども、誰もが見知っている名前かと思う。何故ならば、一昔前のお役所関係の書類の見本を、この二人が全国津々浦々まで出向いて書いて下さっていたからだ。何という努力か。近年では、郵政太郎とか、国税太郎とか、続々と各家庭から太郎さんが参入してきていて、記入例業界も濡れ手に粟と賑わっている。

ジョン・スミスさんも同じ動機、つまり、一般的にありふれていると思われている、必ずしも統計に基づかないイメージを先行させて「一般人」として創作された人物に名付けられる名称として、有名である。もはやその名前は、名無しの権兵衛さんとしての役回りから逸脱して、フィクション作品のなかでの「わたしは偽名です」というこっそりとした主張にまでなってしまっている。何かの作品にジョン・スミスが出てきたら、それと解る人はすぐに感付けるし、解らない人にも悪影響がおよばないという仕掛けだ。匿名という意味では、かつて、有名イラストレーターが「山田太郎（仮）」というペンネームで漫画を描いていた、なんて話もあった。ご丁寧に「（仮）」まで付いている。

パソコン通信後の、インターネット黎明期に、ネット掲示板というのが流行った。メッセージ入力フォームには名前とメールアドレスとを書き込む欄も用意されているのがお決まりの形だったが、多くの利用者が匿名で発言していた。名前を入力しないと「名無しさん」などといった代わりの名前が自動的に出力され、多数の名無しさんが好き勝手に玉石混淆な議論をし、発言の真実性や責任の所在は、すべて藪のなかであった。ウェブ掲示板はすっかり衰退しているが、匿名発信の文化はSNSへと土俵を変えて、今でも続いている。

中国でも張三李四（張さんの第三子、李さんの第四子）といえば、凡百の特段目立つことのない一般市民のような意味になる。悪目立ちしないのは生きるうえで大切なことでもあり、子どもに良い名前を付けるとその目立つ子を魔物が攫ってしまうからと、悪い意味の名前を付けたり、「名無し」という名前にしたりする文化は、世界中で散見される。なるほど、ウェブ掲示板でも、己が苛烈な発言への反感から身を守るため、「名無し」の名前が隠れ蓑にされていた。この場合はどちらが魔物だか、一概にいえない話ではあるが。

知人に山田太郎さんも山田花子さんもジョン・スミスさんも居ないが、調査しているフィールドには、ムハンマド・アリーさんが四人も居る。ムハンマドはイスラーム教の最後にして最高の預言者の名だし、アリーも彼の従弟であり第四代正統カリフの名なのだから、かぶってしかりの名なのではあるが。そうなると父親名とか、村名とかで何とか区別をしていくしかない。それでもダメなら、綽名を付けるしかない。そういえば、ボクシングでも同名のアメリカ人選手が居たなぁ。